

# 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 平成20年9月〇日
- 2 学年 第6学年〇組
- 3 場所 第6学年〇組教室
- 4 単元名 感動をリズムにのせて 「俳句の世界によろこそ」
- 5 言語活動 経験したこと、想像したことなどを基に、俳句をつくること

## 6 単元設定の理由

### ○ 児童観

本学級の児童の「書く能力」は、5月のCRT標準検査で、以下のような結果であった。

内 容	学年得点率	全国得点率	全国比（全国＝100）
書くこと	85.0	78.0	109
表現や構成を工夫して書くこと	77.6	65.9	118
適切な内容や事柄を選び書くこと	86.5	82.6	105
語句の正しい使い方を知ること	96.0	90.6	106

この結果や児童の日頃の学習の様子から、書くこと自体は不得手ではないと思われる。また、いわゆる行事作文等を書く際も、与えられた課題やテーマに対して熱心に取り組んでおり、先生や友達のアドバイスも素直に聞き、作品に生かそうとしている。

これまでの取り組みとして、相手意識を持たせて紹介文や感想文などを書かせてきた。しかし、児童は何をどのように書いたらよいか迷ったり、書き終えたとしても児童が考えていたことやイメージしていたこととはずれていたりして、納得のいく作品にならないことも多かった。また、語彙も豊かではなく、相手や目的に応じて、適切な言葉を使って書くことが難しい児童もいる。これらは、授業の中で書くことの経験が少なかったことや、児童が興味・関心をもって書きたくなる魅力的な題材の設定ができなかったこと、さらに、よい作品とはどのようなものであり、どのように書いていけばよいかなどについて具体的な指導が不十分であったことが考えられる。

そこで、書くことについて「題材」と「書く能力」の2点に留意した学習が必要であると考えた。

### ○ 題材について

- ① 児童にとって身近なことで興味・関心をもって書きたくなる魅力的なもの
- ② できるだけ短い文で、児童全員が書けたり推敲できたりできるもの
- ③ 評価がしやすく達成感を味わうことができるもの

### ○ 書く能力について

- ① 全体を見通して、事柄を整理して書く
- ② 自分の思いが伝わるように、構成に注意して書く
- ③ 言葉にこだわって、表現の効果を確かめて書く
- ④ 語感、言葉の使い方に対する感覚に関心をもって書く

児童の実態やこれまでの取り組みから、児童が感じたことや思ったことを素直に表現できる俳句の学習が適切ではないかと考えた。短歌については第5学年の頃から折に触れてつくってきており、自分の気持ちを言葉にしてのびのびと表現している。短い言葉で情景や気持ちを表現することは、俳句についても通じるころがあるので、児童が俳句の学習にスムーズに入れるのではないかと考える。

### ○ 教材観

日本の伝統的な短詩型である短歌と俳句は、五音と七音の組み合わせのリズムを持ち、短い言葉の中にさまざまな季節の情景や作り手の思いが込められている。また、俳句の表現には、言葉の省略・倒置・さまざまな比喻や飛躍が多く用いられ、優れた叙述を味わい

ながら読んだり、表現の効果を確かめながら書いたりすることが要求される。五・七・五の限られた字数の言葉を吟味することで、言語感覚を磨くことにもつながると考える。

教科書教材の「感動をリズムにのせて」は、俳句を解釈や鑑賞の対象としてではなく、自らの表現活動として取り上げている。そのため、同年代の作品を掲載して俳句を身近に感じられるようにしている。季語や語調を考え、言葉を選んでいく過程で、児童は、散文とは違った表現の工夫について気付いたり学んだりできると考える。

自分で、俳句をつくることを通して、自然を感じながら日本の伝統文化の一つである俳句の世界に親しむとともに、言語感覚を養うきっかけとしていきたい。

#### ○ 指導観

指導に当たっては、まず、教科書から好きな俳句を2句選び、その理由を交流することを通して、その句に使われている言葉を自分の言葉の世界と摺り合わせたり、自分の中に引き寄せてとらえ直したりさせたい。次に、イメージマップを使って実際に言葉を集めたり整理したりして、自分の思いをよりの確に伝えられる言葉を探すことを通して、言葉の世界を広げ、俳句づくりに生かしていけるようにしていきたい。

また、自分の思いを俳句で表現するために、次の3点を指導していきたい。

##### ① 俳句を学習する意義を知る

(自己表現する喜びを経験する。感性を豊かにする。言語感覚を養う。伝統文化の一つである俳句の世界に親しむ。)

##### ② 俳句をつくるための手順を知る

- ・ 俳句とはどのようなものであるのか(歴史や形式、決まり事など)を知る
- ・ たくさんの季語を集める
- ・ 季語から連想する言葉を書き、イメージマップに整理する
- ・ 「五・七・五」のリズムに親しむ

##### ③ 俳句を交流して、友達に伝える喜びや、友達の表現のよさを見付ける楽しさを体験する

#### 7 本単元への導入段階の学習

##### (1) 15分の帯時間「ことばタイム」を使った俳句の学習

正岡子規などの代表的な俳句を紹介し、自分なりに味わったり、表現の工夫等を学習したりした。

##### (2) 平和学習の一環として「平和への祈り」と題した俳句づくり

平和集会で全校児童の前で発表したが、このときは、季語についてはこだわらずに、五・七・五の形式になる作品にした。

##### (3) テーマを与えた俳句づくりとよさの交流

俳句の形式を教え、テーマを与えて児童に俳句をつくらせた。さらに、その子らしい表現を工夫している児童の俳句を紹介して、全員で「どこがよいのか」「よい俳句とはどのようなものだろうか」など考えていった。

その結論として、「よい俳句とは、① 読む人を引きつける、② ストレートな言葉でなく、場面(情景)で人の気持ちがわかる、③ 言葉の工夫(擬人法やびっくりする言葉)がある」ということが児童の共通認識としてまとまっていった。そこで、この3点に気を付けて俳句をつくっていくよう指導した。

次に、児童がつくった俳句を、児童の許可を得てみんなに紹介して「さらによい俳句にするために、自分だったらどのように一部を変えるか」についてクラスで考えた。

##### (4) 夏休みの課題としての俳句づくり

「私だけの夏休み」と題して、俳句を5首つくることを課題とした。5首のうち3首はテーマ(「せみ」「ひまわり」「祭」)を与え、残りの2首は、自分でテーマを考えさせるようにした。

#### 8 単元の目標

○ 俳句の内容や特徴に興味をもち、楽しんで学習に取り組もうとしている。

[関心・意欲・態度]

○ 言葉のリズムを生かし、自分らしい表現を工夫して俳句をつくる。[B書くこと オ]

○ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。[言語事項 ウ(エ)]

#### 9 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 俳句の言葉に興味をもち、楽しんで俳句をつく	○ 自分の思いが伝わる言葉を選び、自分らしい表現を工夫して俳句をつく	○ 「五・七・五」のリズムや語感などに

ろうとしている。	ている。	関心をもっている。
----------	------	-----------

10 単元の指導計画 (全4時間)

次	時	主な学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			関意態	書く	言語		
一	1	◎ <b>俳句に興味を持とう</b> ・ 自分が知っている俳句について発表する ・ 教科書の俳句を読んで、自分が好きな俳句を2句選び、選んだ理由を発表する。	○			・ 俳句に興味を持ち、俳句の言葉や表現されている世界に関心を示している。	発言 ワークシート
	2	・ 教科書の俳句の、その言葉だからこそその表現のよさに気付く。 ・ 歳時記(季語)について知る。 ・ 「秋」の俳句を作るための言葉探しをする。			○	・ 短い言葉で表現される奥深さに気付く。 ・ 自分の「秋」を表現する言葉を見付けようとしている。	発言・行動観察 ワークシート
二	3	◎ <b>俳句をつくろう</b> ・ 歳時記などを参考に、季節感のある言葉や生活の中の発見などを基に俳句をつくる。 ・ つくった俳句を3人グループで交流する。 <p style="text-align: right;">(本時)</p>		○		・ 自分の思いが分かってもらえる言葉を選び表現を工夫して俳句をつくっている。 ・ 友達の俳句に対してよさを伝えようとしている。	ワークシート 評価カード
三	4	◎ <b>俳句を交流し合おう</b> ・ 前時につくった俳句を、言葉選びや表現の効果を考えて完成させる。 ・ 6人グループで読み合い、感想を伝え合う。		○		・ 表現を工夫して俳句を完成させている。 ・ 友達の俳句に対してよさを伝えようとしている。	評価カード

11 学習の展開

(1) 本時の目標

- 季節感のある言葉や生活の中の発見などを基に、自分ならではの俳句をつくる。

(2) 本時の評価規準

- 自分の思いが伝わる言葉を選び、自分らしい表現を工夫して俳句をつくっている。

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">わたしだけの「秋」を俳句にしよう</div>	○ 「楽しい、きれい、悲しい」など、直接気持ちを表す言葉をできるだけ使わずに、自分だけの表現を工夫して、生き生きとして味わい深い秋の俳句をつくることを確認する。	
2 季節感のある言葉を集め、自分の「秋」を表現する言葉を書き出す。	○ 「秋」から連想されるたくさん言葉を挙げ、その中から自分の「秋」を表現する言葉を1つ選んで、プリントに書き出させる。	
3 テーマを決め、連想する言葉や生活の中の発見を基に、俳句をつくる。	○ 自分が選んだ言葉から連想する言葉や、その言葉に関連して心が動いた出来事や体験、発見などを、イメージマップに書き出させる。 ○ イメージマップを参考にして、「五・七・五」	A: 自分の思いが分かってもらえる こだわりの

<p>4 つくった俳句をグループで交流する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>のリズムに当てはめ、俳句をつくらせる。</p> <p>C：どんな思いでつくりたいのかを聞き、イメージマップを見ながら表したいことにふさわしい言葉を一緒に考え、俳句が完成するよう支援する。</p> <p>○ 3人グループになり、つくった俳句を紹介し、それぞれが表現している世界を想像する。</p> <p>○ つくった時の気持ちや俳句そのものの情景や気持ちなどを交流する。</p> <p>○ 作者の発表を受けて、コメントカードによかったところやさらに工夫した方がよいところを記入し、アドバイスをする。</p> <p>○ よいものがあれば、全体に紹介する。</p> <p>○ 振り返りカードに学習して分かったことや、自分や友達の頑張りを書かせる。</p>	<p>言葉を選び、俳句をつくっている。</p> <p>B：自分の思いが分かってもらえる言葉を選び、俳句をつくっている。</p> <p>(評価カード)</p>
--	---	--

## 12 準備物

イメージマップ，コメントカード，振り返りカード，歳時記